

しろくまのかんじの話 ちよつと休憩シリーズ

ちよつと休憩 1

ちよつとむずかしい漢字の話がつづいたので、今日はいきぬきしてみましよう。数字にまつわる漢字の読み方。ほんとうにいろいろです。とくに人の名字にはとくべつな読み方がありますよね。クイズみたいにしたのしんでみてください。「一」・「五」・「九」・「十」これらは、みな、実際に名字にあるそうですよ。「一」は、はじめ、じゃないの?」と思われるかもですが、それってお名前のほうですよね。名字では「一」で「にのまえ」さん。二の前は一だから。だから日本でいちばん短い名前は「一・一」で「にのまえはじめ」さんになるのかな。「五」は「かずなか」。きつと一から九までの数字のまんなかにあるからでしょうね。「九」は「いちじく」さん。え?? なんて? となるでしょうけど、「九、一字」だから「いちじく」らしいです。さて、なぞなぞみたいなのが「十」。「つなし」と読みます。さて、みなさん、この字がなぜ「つなし」と読むか考えてみてください。

数字に関するめずらしい読み方は日本にはたくさんあります。「六月一日」という名字の人がいるんですよ。これで「うりわり」さんと読むそうです。「四月一日」は「わたぬき」さん。調べてみたらたくさんありますよ。

さてさて、数字にまつわる漢字の話をしていきましょう。よく、一発勝負に出てやる、うまくいくかどうか…というときに、「一か八か」といいますよね。何が「一」で何が「八」か? みなさんは日本のおかしサイコロをつかったゲームを知っていますか? 時代劇でよくみかける、サイコロをつぼに入れて「半か丁か?」とやっているの、知りませんか? 丁の一画めの「一」、半の上2つの「八」をとって「一か八か」になりました、という話があります。

入試で出題される四字熟語。漢数字の入ったものもよく出題されますが:「一■二■」「三■四■」「五■六■」「七■八■」すべてあります。どうでしょう? みなさん全部つくれますか? しろくまがおかし、塾の先生をしていたとき、くるしまぎれにふざけた答えをした子がいました。「五月六日」と「三泊四日」:。こんなのはダメですよ。そーいや「一■千■」で、「一回千円」とか書いていたヤツもいました。テストのときはふざけてこんなを書いてはいけませんよ。

そーそー、「一石二鳥」って言葉。中国のことわざからきた、と思っている人いませんか? これは実は英語のことわざからきたものです。

kill two bird with one stone

時代劇なんかで「こいつは一石二鳥だあ」とかいうセリフが出てきたら、あんた江戸時代にそんな言葉はありまへんでっ とツッコミ入れてくださいね。

みなさんは十二支（じゅうにし）って知っていますか？知ってるよっと、いうみなさん、漢字で書けますか？年賀状（ねんがじょう）を書くときに、まさか「うしどし」を「牛年」とか書いたりしていませんか？

「ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い」

言えたらつぎは、漢字で書けないとね。

「子」「丑」「寅」「卯」「辰」「巳」「午」「未」「申」「酉」「戌」「亥」

です。書けましたか？

みなさん、紙と鉛筆を用意してください。べつにコンパス使わなくてもよいですから、くるりっと大きく円を書いてみてください。で、円周を十二等分してみてくださいますか？十字を書いて三等分してもかまいません。自転車の車輪みたいに中心を通る十二本の線を引いてみてください。一番上を「子」と書いて、時計まわりに、「丑」「寅」「卯」…と書いていってくださいか？

むかしは、これで方位と時間をあらわしました。

まずは「方位」の話から。一番上の「子」が「北」になります。「東」は「卯」、「南」は「午」、「西」は「酉」、と書いていますよね。社会が得意な人は、地球儀のタテの線とヨコの線を何と何と知っていますよね。タテが経線、ヨコが緯線。「経」は「くんよみ」で「たていと」、「緯」は「くんよみ」で「よこいと」と読みます。経緯、という言葉は「物事の時間の流れ、タテの流れと、ヨコのつながり」という意味になるわけです。

タテ線の経線ですが、別名、「子午線」っていうのを知りませんか？「ねずみ・うま」線、北と南を結ぶから「子午線」なんですよ。むかしは迷信（めいしん）深い時代でした。不吉なことは、「北東」のほうからやってくる。「南西」に抜けていく、と考えられたのです。えたいのしれない怪物が、北東からやってくる…みなさんは「鬼門」（きもん）って聞いたことはないですか？むかしは北東のことを言ったのです。みなさんの家が、日本式の家なら、北東の部屋の角に、お守りとかお札がぶらさがっていませんか？不吉な北東を守っているのです。むかしは、北東の角には何も置かず、きれいに清めて空白にしておきました。

さっき書いてくれた円を見てください。北東って、「丑」と「寅」の間でしょ？鬼門は別名、「うしとら」の方角と書いてました。で、むかしの人は想像力をゆたかにして、えたいのしれない怪物「鬼」は、「うしとら」の方向からくるから、鬼を「うし+とら」の怪物にしたのです。だって、鬼ってウシの角とトラの皮のパンツはいてるでしょう？そうやって鬼の姿をあらわしました。ときどき、お城のかわらに「桃」の絵が描かれているときがあるのですが、それはたいてい北東です。

ほかに、この図で、怪物がつくられました。これらの動物は、火の性、水の性、木の性、土の性、の生き物に分けられます。「子」「辰」「申」を結んだ三角形が「水の性」。ねずみの顔+竜のうろこ+猿の体で「カッパ」が生まれました。「午」「寅」「戌」を結んだ三角形は「水の性」とちょうど反対、すなわち「火の性」で、水に対しては負ける生き物…。かっぱが川に馬をひきずりこむ、という話はここから作られました（といってもみんなのおばあさんやおじいさんでないこの話は何のことかわからないでしょうね）。

そして、「時間」ですが、これもかんたん。いちばん上の「子」がちょうど夜中の0時です。むかしは一日を12分割して時間を示しましたから、一刻（いっとき）は二時間になります。「午」がお昼の12時。「まさに午」で「正午」、それより前が「午前」でそれより後が「午後」と書くわけです。とすると、夜中の「丑」から「寅」は夜中の二時から四時。いちばん夜がふけるころ…それもそのはず、「丑」から「寅」に時間がうつるときは、この世とあの世の「とびら」の「鬼門」が開く時間です…きやくこわいっ。鬼が北東から通過していく時間帯。よい子は寝ていないといけない時間です。わら人形にくぎを打ちつけて、人を呪（のろ）う「丑の刻参り」って、どうしてそんな時間にするかこれでわかりましたか？神社に行くと、ときどき、ウシの像が置いてあります。神さまの使い、と説明されている場合があります。ところが、天満宮のウシの像は、座っています…なぜか？ウシが立って動いたら、トラにうつって、鬼門が開いてしまうからです。ウシを座らせる、つまり時間を止めて鬼門が開かないようにしているのですよ…たたりをするために、あの世から出てきてもらってはこまるから、というわけです。

漢字で書きなさい、という問題は、国語だけでなく社会にもありますよね。今回は歴史の人物や用語の書き取りや読みをしてみようかな。

(人物)

- ① () 弥呼
 - ② () 略天皇 (倭王の武とされている天皇)
 - ③ () 徳太子
 - ④ () 我入鹿
 - ⑤ 中臣 () 足
 - ⑥ 天 () 天皇 (大化の改新の中心人物・もとは中大兄皇子)
 - ⑦ 唐から来日した () 真
 - ⑧ 大仏づくりに協力した僧の行 ()
 - ⑨ 阿 () 仲麻呂
 - ⑩ 山上 () 良
- まずは、この10人、書けるかな？

回答編

① 卑弥呼

「やまたいこく」とか「ぎ」とかも書けるかな。かなりむずかしい読みと漢字ですよ。『魏志倭人伝』という中国の歴史書に書かれています、とよくいうけど、『魏志倭人伝』という歴史書はじつはないんです。正確には『魏書』烏丸鮮卑東夷倭人条、を、そう呼んでいるらしいですよ。な、ながしい、名前。「ぎしょ・うがん・せんび・とうい・わじんのじょう」って読みます：

「卑弥呼」や「邪馬台国」も、あて字です。あくまでも中国の人がそう記録しただけで、卑弥呼さんは「わたし、ひみこよ」とおっしゃってなかったと思います。記録によると、卑弥呼さんは魏に「生口」をおくっています。さて、生口って何かわかりますか？ 生きている人、この場合は「奴婢(どれい)」をおくったみたいです。で、王の称号と銅鏡をもらいました。

そういや卑弥呼さんより前に、やはり使いをおくって金印もらった日本の王さまがいました。奴国(なこく)の王がそうです。金印にぎざまれていた文字、書けますか？ 「かんのわのなのこくおう」「漢委奴国王」です。

教科書によっては写真で出ているものもありますよね。「倭」ではなく「委」とぎざまれています。「イ」にんべんがない：まちがいだ！ とか、いや、「委奴国」で「いとこく」と読むのが正しいのだ！ いや、そもそも金印はにせものだったと、諸説さまざままで話題をよんでいます。でも、しるくまにしたら、べつにおかしい話ではないですよ。

おかしは部首はたいへんテキストにつけていました。「委」は当時は「ウエ」と発音していたみたいなんです、その意味するところは「小さい」ということらしいです。で、「委十人」で、「ちいさい人」：「ウエ」と発音していたら、何の「ウエ」かわからない、人間のウエだよ、と、わかりやすくするために「倭」と「にんべん」をつけました。ということ、わかる場合は部首は昔ははぶくこともあったのです。ハンコに「委」とかけば、人間だってわかりますからいちいち「イ」はつけなかったのですよ。むしろ「にんべん」がついているほうが、しるくまなら、あやしい、と思います。さて、ハンコの持つ部分、なんか、うんこがのっかっているように見えますが、これは実は「へび」です。おくられた西暦57年は中国の年号では建武中元二年：この年の干支は「丁巳」つまり「へび年」だからなんです。

② 雄略天皇

この人は、ワカタケル大王とよばれている人です。大王は「だいおう」と読むとカッコよさそうですが、これは「おきみ」と読みます。埼玉県の稲荷山古墳から鉄の剣が発見されて、そこに名前がぎざまれました、みたいな話が教科書によってのっています。倭王の「武」と同一人物らしい、とされています。「ワカタケル」も卑弥呼と同じように、むりやり漢字をあてはめて記されています。

③ 聖徳太子

最近では実在があやしい、とかいわれている人です。厩戸王(うまやどおう)とよばれている人。さて、へんな問題

を出します。十七条憲法は「何条」ありますか？はあ？？ そんなん17条やんっ と、みなさんに怒られそうです。では、冠位十二階の冠の色はいくつ色がありますか？ と、きかれて12色、と、答えてはいけませんよ。6色です。なんか濃淡で色を区別したって、書いてあるものも見たのですが、え？！ じゃ白はどうしてたん？？ と、なるので濃淡での判別ではないですよ。

中国の隋に使いをおくりました。「隋」という字。「随」にしてはいけませんよ。「こぎとへん」＋「左」＋「月」です。この字はもともと「肉をとりわけける」という意味です。主宰者（しゅさいしゃ）という意味があります。国の名前としてはふさわしいですよね。 「左」は「エ」という台の上のものを「手」でとる、という意味と前に説明したでしょう？ 「月」は「にくづき」で「肉」をしめしています。だから「肉をとりわけける」という意味になるのです。ところで、聖徳太子が隋に使いをおくったときの皇帝は「煬帝」さんです。「ようだい」と読みます。でも、この人の名前、ちょっとへんなのです。初代は「文帝」で、名前は「楊堅」（ようけん）さん。楊氏のはずなのに「煬帝」の「煬」は「火」ですよね。じつは、「煬帝」さんは「楊広」（ようこう）さんなんです。あまりにひどい皇帝だったので、隋がほろびた後、名前をかえられたのです。「煬」には「民をしいたげ、人のいうこときかず、わるいことをする」という意味があって、こんな字を「おくりな」されちゃいました。だから「煬帝」さんは、自分で「わたしは煬帝です」とは絶対言うてないですよ。

④ 蘇我入鹿 ⑤ 中臣鎌足

「そがのいるか」さんです。祖父は聖徳太子とともに政治をしたといわれている蘇我馬子（うまこ）。父は蘇我蝦夷（えみし）です。大化の改新のときに中大兄皇子と中臣鎌足にたおされました、と、説明されます。蘇我の「蘇」は「くさかんむり」＋「さかな」＋「のぎ」です。「さかな」や「のぎ（いなほ）」のに入った文字。ゆたかさをしめした字ですよ。この暗殺事件が「大化の改新」ではありませんよ。この事件をきっかけに始まった改革（かいかく）すべてが「大化の改新」です。この事件は「乙巳の変」（いつしのへん）というちゃんとした名前があるんですよ。「巳」ですから645年は「へび年」だってわかります。だから、もう、みんなは、「中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿をたおしました、これを大化の改新という」とか言ってはいけませんよ。「乙巳の変で、蘇我入鹿がたおされ、中大兄皇子と中臣鎌足が大化の改新をはじめました」と言えるようにしましょう。中臣鎌足の「鎌」は「金」＋「兼」です。「兼」という字は一度、大きな字で書いて正しいかどうか確認しておいてね。よく書き間違いがある字ですから。

⑥ 天智天皇

中大兄皇子のことです。「なかのおおえのおうじ」もなかなかむずかしい読み方ですよ。ほんとには中皇子なんです。よ。「おおえ」というのは、つぎに天皇になる人、皇太子のことです。あ、皇族（こうぞく）の、その一家の後とりの場合も「おおえ」がついたみたいです。乙巳の変の天皇、皇極（こうぎよく）天皇は中大兄皇子のお母さんです。で、中大兄皇子は、孝徳天皇を立てて、自分は皇太子となります。お母さんは引退。でも、孝徳天皇をしりぞけたあと、もう一度お母さんに天皇になってもらって、これが斉明（さいめい）天皇です。なかなか中大兄皇子は天皇になりません。でも、朝鮮へ兵を出して戦いで負け、その後、ようやく天皇になります。この戦いは「白村江の戦い」といいます。読み方は「はくすきのえ」ですが、今では「はくそんこう」と読んでよいみたいです。有名な戦いなのに、戦った場所が、はっきりと確定できていないようです。天智天皇の「天智」ですが、「てんち」ではなく「てんじ」と読むのが正しいのです。「知」＋「日」ですよ。 「目」と書いてしまう人が時々います。注意してね。

都は滋賀県の天津にうつされました。園城寺、というお寺があります。ふつうは「三井寺」というのですが、天智天皇・天武天皇・持統天皇の三人が産湯をつかった井戸があるから「三井寺」となった、という話をきいたことがあります。

さて、天智天皇の弟が大海人皇子。「だいかいじんおうじ」と読んではいけません。「おおあまのみこ」です。天智天皇の死後、天智天皇の子の大海人皇子とあらしい、勝利して、天武天皇となりました。この戦いが「壬申の乱」。壬申ですから、「さる年」。672年は「申年」なんですよ。

血縁関係がややこしいのですが、天智天皇の娘、うののさららのひめみこは天武天皇のお后（きさき）さまになります。おじさんと結婚したことになります。そして、草壁（くさかべ）皇子が生まれる。さらに、その草壁皇子の妻が、うののさららのひめみこの妹のあへのひめみこ。え。もう何がなんだかわからない。みなさん、図を書いてみてください。

草壁皇子の子が軽皇子（かるのみこ）です。ところが草壁皇子が早くに死んでしまって、どうしよう。天武天皇の息子の一人、高市皇子（たけちのみこ）の子、長屋王さまがいるじゃん。と、なったのですが、いや、軽皇子が大きくなるまでわたしがするっ！ と、天皇になったのが、うののさららのひめみこ、持統天皇です。そりゃ天智天皇の娘さまでから天皇なれますよね。で、その後、軽皇子が文武天皇となるわけです。文武天皇は藤原氏の娘と結婚して、首（おびと）皇子が生まれました。ところが、文武天皇のつぎに天皇になったのは、お母さんの、あへのひ

めみこ：…これが元明天皇です。孫の首皇子が大きくなるまでわたしがするっ と、いうわけです。この人のとき都が平城京にうつされるわけですよね。710年のことです。そのつぎの天皇は、文武天皇の妹：…これが元正天皇：…女性の天皇が連続します：…なんかちょっと異様な感じがしませんか？ どうもだれかに天皇の位をゆずらないっ という執念を感じませんか？ そうなんです。系図を書いた人は気づくと思うのですが、高市皇子の子、長屋王が天皇にならないようにならないように、持統天皇・元明天皇・元正天皇と女性たちが、皇子が大きくなるまで天皇しているんです：壬申の乱に勝ったのは天武天皇のはずなのに、いつのまにか天智天皇の側ばかりが天皇になっている：…形をかえた女たちの戦いですよね。で、首皇子が天皇となります。これが聖武天皇です。そして、とうとうじやまものの長屋王は、ころされる：…というわけです。ちょっとこわい奈良時代の裏話でした。

(編者注：女性天皇が続いたのには諸説があるようです。)

⑦ 鑑真

「がんじん」は、唐から日本に戒律(かいりつ)を伝えるためにやってきてくださったえらくいおぼうさまです。同じときに阿倍仲麻呂と吉備真備(きびのみまきび)が帰国しようとしています。吉備真備はなんとか帰国できましたが、阿倍仲麻呂は帰国できませんでした。で、鑑真の建てたお寺が奈良にある「唐招提寺(とうしょうだいじ)」です。これも漢字で書けないといけませんよ。

⑧ 行基

「ぎょうき」は渡来人の子孫ともいわれている人です。農民のために仏教をひろげながら、堤防(ていぼう)つくったりため池つくったりして、各地をまわりました。さいしょは弾圧(だんあつ)されましたが、農民たちに人気があったので、大仏づくりに協力させるため、大僧正の位をもらうようになります。

⑨ 阿倍仲麻呂

「あべのなかまろ」は歴史では、こう表記してください。でも、じっさいは「安」でもよいみたいで、国語の資料集などでは「安」で書いてあるものもあります。たいへん有能な人で、当時の唐の皇帝が帰国をゆるさなかったほどの人物らしいです。

⑩ 山上憶良

「やまのうえのおくら」と読みます。教科書に、まずしい農民のためをおもって歌をよんだ、とされています。「万葉集」に「貧窮問答歌」というのがありますが、この人の歌ですよ。「ひんきゅうもんどうか」と読みます。「貧窮」がむずかしいですよ。 「貧」という字は「分」と「貝」です。「窮」は「穴」(あなかんむり)に「身」+「弓」。「弓」が「きゅう」と音を示しています。

奈良時代の農民は、いっぱい負担(ふたん)がありました。租庸調(そ・よう・ちょう)という税があったのは聞いたことがないですか？ 6歳になったら口分田(くぶんでん)があたえられて、税をおさめさせられました。口分田は「くぶんでん」と読みます。「租」は「収かくの3%」を地方の役所におさめました。て、ゆーか、里長(さとおさ)が取り立てにきます。「庸」は都ではたらかされるか、そのかわりに布をおさめるもの。「調」は地方の特産物です。これらは男子だけに課(か)せられ、しかも自分で持っていないかなくてはなりません：…塩や絹などが多かったようです。しろくまが学生時代、友人の史学科のヤツが木簡(もっかん)を整理していたのを手伝われたときがあります。なかなかおもしろかったですよ。いろいろ都に運ばれていました。「くがね」「しろがね」「あかがね」「くろがね」って何かわかりますか？ 「金」「銀」「銅」「鉄」を、むかしはこうよびました。さて、「臭水」って何かわかりますか？ 「くそうみず」も特産物として都にとどけられました。え？ 「くさいみず」？ そんなもんいらんっ と、なりそうですが、これは「石油」です。「もゆる水」「燃水」ともいいました。

さて、「防人」という負たんもありました。九州の警備のために農民が三年間北九州におくられたのです。「ぼうじんと、読むなっ！ さきもり、と読め！」と、塾の先生はおっしゃっていませんか？ でも、へんなですよ。ね、「租庸調」は「そ・よう・ちょう」と音読みするのに：…だったら塾の先生に「租庸調」も、訓読みしてくださいって、言い返してみてください。(しろくまめ、余計なことを言いやがって、と怒られそうですね)え？？？ 「租庸調」って、ほかに読み方あるの？ あたりまえです。当時の人は、「そようちょう」と言うてませんよ。「租」は「たちから」「庸」は「ちからしろ」、「調」は「みつぎ」です。「租」は田+力、田にはたらきかけてつくるもので「たちから」です。「庸」は、はたからく代わりに布を出す：…代は「しろ」とも読みますよね。「はたらくかわり」だから「ちからしろ」。「調」は特産物。各地の「貢物(みつぎもの)」で「みつぎ」です。「防人」を「さきもり」って、読むなら、ちゅーとはんばはいけません。ほかの読み方も知っておくとカッコよいかもね。あ、「雑徭(ぞうよう)って、いうの

も習いましたか？ これは「くさぐさのみゆき」と読むのです… むずかしい

さて、「万葉集」は「ひらがな」では書いていません。だってひらがなは平安時代の発明ですから、奈良時代にはありません。すべて漢字です。音だけあてはめて書かれているから読みにくい読みにくい

東野炎立所見而 返見為月西渡

え??? なんだこりゃ???

「ひんがしの のにかぎろいの たつみえて かえりみすれば つきかたぶきぬ」

と、読むんですって… よく読めたよね…。

平安時代以降の歴史上の人物・語句などの書き取り、読みの話をつづけていきますね。

- ① () 武天皇 (平安京へ都をうつす)
 - ② () 原道真 (遣唐使の廃止)
 - ③ 藤原道長・藤原頼() の父子
 - ④ () 式部 (『源氏物語』の作者)
 - ⑤ 清 () 言 (『枕草子』の作者)
- どうでしょう。みなさん、ちゃんと漢字で書けましたか？

① 「かんむ」天皇は平安京に都をうつした、と、ありますが、その前にも都をつくっています。平城京から長岡京へ、そして平安京へ。長岡京から平安京へ都をうつしたいきさつは、いろいろありますが、「怨霊(おんりょう)の祟(た)りからのがれる、という話も有名です。桓武天皇の弟が、天皇をしりぞけて自分が天皇となろうとしている、という罪をきせられて淡路島に流される…で、怨霊となって祟りをなすようになって、都に伝染病(でんせんびょう)や洪水(こうずい)がおこったから、怨霊をしずめて都をかえました」というものです。長岡京の発掘調査でも、怨霊封じのお札が出てきたりして、話題となったことがあります。平安時代には、いろいろな話や物語の中でよく怨霊が出てきます。とくにこの「早良(さわら)親王」「菅原道真」「平将門(たいらのまさかど)」さんたちは、ビッグ3として平安時代の人たちはとくにおそれたようですよ。

最近では、長岡京から平安京へ都をうつした理由の一つに、環境問題と結びつけた研究もあっておもしろいです。都の建設のために山林伐採(ばっさい)をしすぎて洪水が発生した、という話です。

「桓武天皇」の「桓」。ほとんど、みなさんはこの天皇のとき以外に使う機会はありませんよね。だからおぼえやすいというべきか、まちがいやすいというべきか…。「木」きへんです。理科で「恒星(こうせい)」とか習いませんでしたか？ あれは「小(りっしんべん)」です。「亘」は「ゆきわたる」という意味です。人のお名前にも「亘」と書いて「わたる」さんっておられます。りっしんべんは「心」ですから、「恒」は「いつまでもかわらない心」という意味があります。なので「恒常」や「恒例」などの字につかいます。「恒星」も「いつまでも動かない星」という意味でつかわれているのです。

「桓」ですが、「木」が「亘」ですから、木がならべられました、という意味です。実際、「桓」は宿場の周囲にめぐらされた木を意味したものです。また、穴がくずれないように、四すみに立てた木も「桓」でした。ささえる、まもるの意味も後年に出てきます。そして「桓桓」と二つならべると音声としては「クァンクァン」とかたく強いひびきとなる…中国のふる〜い書『詩経』という本の中で「桓桓(かんかん)たる武王」という表現があり、桓武天皇に「おくりな」するときここから引用したのでは、という話もあるほど。「桓桓」は「つよくいさましい」という意味。「桓武天皇」って、戦いしたっけ？ と思う人もいるかもですが、聞いたことありませんか？ 坂上田村麻呂(さかのうえのたむらもろ)を征夷大將軍として東北地方の蝦夷(えぞ)をやつつさせに行かせましたっていうのを。じっさい当時は「都つくり」「戦争」が大イベントで、家来の一人に、「もうやめましようよ」といさめられるまで桓武天皇はこの二つに力を入れました。

② 菅原道真

これは「菅」を「管」にしちゃう人、けっこういるんですよ。 「たけかんむり」じゃないですよ、「くさかんむり」です。894年に遣唐使の廃止を進言しました。「遣唐使」の「遣」もよくまちがえる人がいますよね。「遣」とかにしてまちがった人はいませんか？ 当時の貴族は、自分の娘を天皇と結婚(けっこん)させて、生まれた子を天皇にする、ということを考えて勢力を伸ばそうとしました。藤原氏が有名ですが、菅原道真もそうしていました。娘むこの王子を天皇にしようとしている、と、されて中央政界から大宰府(だざいふ)に追いやられてしまう… 死後、怨霊となって藤原氏にたたりましたぁ。 という話は有名で、前にもちよっぴりその話をしました。あ、「大」宰府はむかしの書き方です。現在は「太」宰府です。歴史では「大宰府」と書いたほうがよいよ。

③ 藤原道長・藤原頼通

これも「みちなが」は「道」、「よりみち」は「通」だよ！ と、習ったことはあるでしょう。「通」は、ふつうは「みち」とは読まないものです。「ゆきわたる」「つらぬく」などの意味です。「普通」は「あまねくゆきわたる」から「どこにでもある」という意味になります。訓読みは「通る」と「通う」。「とおる」「かよ・う」ですよ。「みち」は

「みち」でも「通」（トウ）は「まっすぐにつきぬけた」ものです。「道」は、人がおって道になりました、みたいな感じですが、「通」は、まっすぐ人工的なイメージがつよい「みち」です。頼通が宇治に建てた「平等院鳳凰堂」の「鳳凰」も、「かぜかんむり」の中に「鳥」ではありませんよ。「鳳」の中は「一」＋「鳥」。で、「鳳」は「一」はありません。「皇」を書きます。

むかし、友人の社会科の講師にへんな質問されました。

「あのさ、関白って、なんで関白やねん？」

「え…」

「いや、生徒に質問されてさ、関白って、どういう意味よ」

なるほどなるほど、子どもの素朴（そぼく）な質問は、ときどき困るときがあります。

「白」ってみなさん、「色」だけを意味する字では無いのを知っていましたか？「白」は親指のツメをあらわしている、あるいは、月が光かがやいている、という図だ、と、いろいろいわれるものです。どんぐりの皮とった色からきている、だから象形文字だ、ともいわれています。白は金のかがやきの部分ともされるので、「金」もあらわす場合があるのです。「木」青、火」赤、土」黄、金」白、水」黒」と中国ではあてはめました。土が黄色いのは「黄土」からきていると思います。だから、木が「青々と」しげる、といいますし、なんと、水は「黒々と」と表現する場合がありますのを知っていましたか？「あきらかにする」ということから「あかす」「つげる」の意味が出て、「はなす」にもなりました。「告白」「白状」「科白（せりふ）」などに「白」が入るのはこのためです。

「白す」で「もうす」と読みます。「関」は「かかわり」だけではなく、「関」は「あずかる」という意味があります。

「天子の政務にあずかりもうす」つまり「関り白す」者。政務の前に意見をもうしのべさせる者、ということ、藤原基経が天皇からそう呼ばれたことから、のちに「関白」が正式の役職になったのです。

摂政と関白による政治で「摂関政治」というわけです。正確には道長さんは「関白」をしていませんが、頼通さんは50年ほど摂政・関白をやっておられたはず… ながく権力の座におられたのですね！

④ 紫式部 ⑤ 清少納言

この二人は平安時代の女性のベストセラー作家のお二人です。みなさんもよく知っているでしょう？ むかしの日本のことばで書かれてあるので、小学生がよむのはなかなかむずかしいよね。

さて、紫式部の代表作は『源氏物語』です。

あ、武士の源氏の話ではないよ。ちゅういしてね。『平家物語』のほうは武士の平氏の話だけれど、『源氏物語』はフィクション、つまり、つくり話。つくり話といっても、まるでほんとうの、当時の貴族の身近なところで「おこりそうな」「ありそうな」話でした。いまでいえば、人気のお昼のテレビドラマみたいで、視聴率（しちようりつ）が50%こえましたっ。みたいな、たいへんよく読まれた作品です。

「紫」という字を「柴」、つまり「糸」を「木」にまちがう人が多いみたいだね！ しろくまが塾の先生していたとき、生徒がよくまちがえるもんだから、ともだちの社会の先生におこられました。

「ちゃんと国語で教えておいてやっ！」

「いやいや、紫とか柴とか、漢字の書き取りでは出ないんよ…」

「漢字にはちがいないやろっ 国語でもちゃんと教えよっ」

「あ、はい… すいません」と、しろくまは、あっさりひきさがってしまいました。

「糸」と「木」ではないけれど、成績の成「績」を「のぎへん」つまり「積」にしてしまう人、いますよね！ 部首のまちがいは、書き取りのまちがいでよくしてしまうものです。

でも、じっさいに社会の先生が小テストを採点しているのをみてたら、先生もまちがいを見落としちゃってるときがあるので「あ、それ、ちがうよ」と横から言うときもよくありました。

「紫式部」の「紫」の「糸」の上の部分「比」にしている子もけっこういました。「比」＋「糸」ですから注意してね！

「清少納言」は「清原」という名前の貴族のおすすめさんです。

あ、「清少・納言」じゃないよ、「清・少納言」だからね。

「少」という字は「小」ではありません。「少納言」は「しょうなごん」、「納」は「ノウ」「おさめる」と読みます。「納屋」となったら「ナヤ」と読みますよね。「納」は「ナ」ともなります。「納豆」なんかも「ナットウ」です。

清少納言の作品は『枕草子』です。

これまた、友人の社会の先生に質問されました。

「あのさ、枕草子の『枕』って、なんで『枕』なんよ」「え…」

「生徒にきかれてさ、草子ってのは、わかるんやけど、なんで枕なん？」前にもいいましたが、みなさんの素朴（そぼく）な質問って、先生たちは、たいへん困るものが多いのです。何でも興味をもつのはたいへんよいことだから、塾の先生をいっぱいこまらせてみてください。（しろくまめ、よけいなことをいいやがってっとな怒られるかな）

清少納言がつかえた定子（ていし）という女性が、紙を天皇からたくさんもらいました。え？ 紙？ と、思わないでね。当時はたいへん貴重品でした。当時、天皇は一条天皇という方で、中国の歴史書『史記』（しき）を書き写してお勉強されていたので、

「では、定子さまは『まくら』にされては？」

「あはははっ なるほど〜 じゃあ、あなたが書いてみて」

となって『枕草子』ができたみたいですよ…

えええ？？？ しろくまさん、いったいなんのこと？？

と、なるでしょうね。『枕草子』の名の由来（ゆらい）の話を読んだとき、しろくまも、頭の中で？？？でしたが、昔の人の言葉あそびだったんです。

『史記』は「しき」、つまり「敷（しき）」。寝るときに下に敷くものこと。天皇さまが『史記』『敷』つまり「おふとん」を書写されたのだから、あなたさまは「まくら」にされては？ という、ま、おふぎけ、です。

この二人の美意識（びいし）、うつくしさに対するこだわり、というもの、二人の作品の中にみられるそれは、「あはれ」と「をかし」です。このちがいを説明するだけで一冊の本が書けるくらいの言葉です。「あはれ」は、もともと「ああ」という「ためいき」からきています。ですから、ためいきが出るくらいの感動は「あはれ」といってもよいかもしれません。リクツよりさきに「ためいきが出るような」美しさや悲しさ… 『源氏物語』のできごとは「あはれ」なものが多いそうです。

これに対して「をかし」は、「ふむふむ、なるほど、へえ〜」みたいな、「おもしろさ」です。「あ、わかるわかる〜」みたいな、わかっていたんだけれど、うまい言い方でできなかってんよ〜 それそれっわたしは言いたかったのは、みたいな「おもしろ」さ。

『枕草子』には「をかし」がいっぱい出てきます。「いと」と「をかし」は清少納言さんのログセかつ と思うほど出てきます。 ちょくかわいってとか、女子高生が言うみたいに、「いと」（ちょく）がたくさん出てきます。（じっさい、『枕草子』を女子高生が使う言葉になおして説明している本もあっておもしろいですよ〜）

前にもちよっと書いたのですけれど、もの数え方につかうものを「助数詞」(じょすうし)といいます。

一匹、2台の「匹」や「台」のことだよ。みんなモノの数え方、どれだけしているかな? 入試にも時々出るの
で、ちよっと今回まとめてみました。うさぎが「羽」とか、たんすが「棹(さお)」とか聞いたことあるよね。ちよっ
とびっくりするのは「ちようちよ」。あれって「一頭、二頭」って昔は数えたのを知っているかな? 「ちようちようが
一頭飛んでいる」なんて言われると、ええ、か、かいじゅう?? と思ってしまうよね

野菜なんかもおもしろいんだよ。たまねぎは「一玉」なんだけれど、キャベツも「一玉」。でも、はくさいは「一株」。
キャベツとはくさいの数え方は何となく同じだと思っていたら違うんだって。

「くするとき、くの場合に変わる助数詞」というのもおもしろいよ。

たばこは「一本」「一箱」と数えるけど吸うときは「一服」になるし、お茶も飲むときは「一服」になるんだ。

馬は「一頭」と数えるけど、人が乗っていると「一騎(き)」と数えるんだよ。お父さんが競馬をテレビで見ていると、
馬の数を「一頭、二頭」って数えていたら、「ちがうよ、一騎、二騎って数えるんだよ」って教えてあげよう

馬に人が乗っていると「騎」だけど、馬+荷物(にもつ)はどうなるか知っているかな? 荷物は「一荷(か)」が
正しい数え方だけれど、馬についた荷物は「一駄(だ)」って言うんだ。

はがきも字を書く前は「一枚」「一葉」だけれど、字を書いたら「一通」となるんだよ。こんどから使い分けて、お
父さんやお母さんをおどろかせてね。

戦いは「一戦」だけどゲームは「一番」。すもうは「一番」といいますよね。将棋や囲碁も「一番」だけど「一局」
というときもあるよ。

将棋が好きで、よくやる人は、「あと一回しよう!」なんていうと幼稚(ようち)っぽいから、今度から「もう一局」
というカッコいいかも。

さてさて、ちよっと問題形式にしてみるから、()に漢字一文字入れてみてください。(同じものもあるからね。)

- 一. いか・たこ 1 ()
- 二. うどん 1杯・1把・1 ()
- 三. かつおぶし 1節・1折・1台・1本・1 ()
- 四. 酒(飲むとき) 1杯・1 ()
- 五. 琴(こと) 1張り・1そろい・1 ()
- 六. すずり 1 ()
- 七. 和歌・短歌 1 ()
- 八. 俳句 1 ()
- 九. 箸(はし) 1そろい・1 ()
- 一〇. 草 1 ()
- 一一. シャツ 1枚・1 ()
- 一二. くつした 1 ()
- 一三. 家 1 ()
- 一四. 刀 1 ()
- 一五. よろい 1 ()
- 一六. やり 1本・1筋・1 ()
- 一七. 飛行機 1 ()
- 一八. 貨車 1 ()
- 一九. お墓(はか) 1 ()
- 二〇. トランプ 1 ()

さて、どれだけ知っているかな?

くちよつと休憩の解答)

- 一. いか・たこなどは一杯、二杯、と数えます。
- 二. うどんは、一玉、二玉で「玉」といいたいのですが、ほんとうはこれ、漢字では表記しないのがふつうのようです。今回は「玉」という漢字にしてみました：
- 三. 「連」です。かつお節の特別な数え方です。
- 四. お酒は、もともと神様などに献上(けんじょう)するようなものです。そこから「献(こん)」という字をあてるようになったのかもしれないね。
- 五. すずりや楽器の琴や琵琶など「面」を使います。
- 六.
- 七. 短歌は「首」で俳句は「句」。「百人一首」の「首」は和歌を数えるときの助数詞で、じっさいの「首」じゃないからね。
- 八.

九. お箸(はし)は、一本、二本、とは言わないよ。一組で役に立つものだから「一膳」で「膳(ぜん)」を使います。むずかしい字だけど今回は紹介(しょうかい)しておきました。

一〇. 草は「一本」「二本」の「本」でよいからね。

一一. シャツなど服は「一着」「二着」だよ。

一二. くつしたは「一足」「二足」と数えますが、お箸と同じで、「二つで一つの助数詞」だよ。

一三. おうちは「一戸」。「棟」は「おね」だけ音読みすると「とう」になるんだ。そうすると「一棟」は「ひとおね」と「いっとう」と読む場合があるんだけど、「いっとう」と読むと、団地とかビルとかに使う言葉になりますよ。ビルまるまる一つ誰かに貸すことを「一棟貸し」、なんていいいます。

一四. 刃は「一振り」「二振り」という場合が多いけど「一口」と書いて「ひとぶり」とも読むんだよ。「いっこう」と読んでかまいません。これは前に話したよね。

一五. よろいは「一領」「二領」と数えます。でもね、かぶと十よろいで、かぶととセットになると「一具」と数えるんだよ。

一六. やりは「一条」と数えることがあります。

一七. 航空機は「一機」「二機」で「機(き)」を使います。

一八. 鉄道は「両」だよ。でも、トラックみたいに長くて大きな車だと「トラックが1両走っている」と「両」を使うときもあるよね。

一九. お墓とか、それから神社の鳥居なんかは「一基」「二基」と「基(き)」を使います。

二〇. トラップは1セットを「一組(ひとくみ)」と数えます。

意外と生活の中で、現在でもよく使われています。また、文学的文章の中の表現などでも、ふんいきを出すために、こういう言葉が効果的に使われるときもあるから知っていても損(そん)じゃないよ。「一陣の風が吹き抜けた」って、風はまあ、数えたりはしないからこの場合の「陣」は助数詞とはいいいくけど、表現としては知っておいたほうがいいよね。

ちなみに、「一つ」とか「三個」とかは、助数詞をふくめてひとつの単語で、全体で数詞といえます。でも、数字がふくまれているからといって「数詞」つまり「名詞」とはかぎらないよ。

「おまんじゅう、一つください」

と言うと「一個おまんじゅうください」となるよね。でも

「ひとつ、今回のこと、よろしくお願いします」

と言うと、この「ひとつ」は数詞じゃないよ。

だって「ふたつ、よろしく」「みっつ、よろしく」とは言わないでしょう？ 数詞は「数えられる」ものだからね。ほかにたくさんあるけど、興味がある人は調べてみてください。